

財 糸 記 第 2 号  
平成 17(2005)年 2月 1日

各 位

財団法人糸賀一雄記念財団  
理事長 國 松 善 次  
(公印省略)

第 9 回糸賀一雄記念賞候補者の募集について

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より糸賀一雄記念賞につきましては、格別のご協力を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、この度、第 9 回糸賀一雄記念賞候補者の推薦を、別添の案内のとおり募集することにいたしましたので、ご承知願いますとともに、この推薦について格別のご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

連絡先

財団法人糸賀一雄記念財団

〒 520-3111

滋賀県湖南市東寺四丁目 1 番 1 号

Tel・Fax : 0748-77-0357

Email : itogamf@mx.biwa.ne.jp

URL : <http://www.biwa.ne.jp/~itogamf>

---

---

第9回

糸賀一雄記念賞

2005

KAZUO ITOGA MEMORIAL PRIZE

— THE 9TH ANUAL AWARD —

---

---

# 「糸賀一雄記念賞」について

---

滋賀県においては、昭和21年11月15日、日本の荒廃した不安定な社会の中で、故糸賀一雄氏を中心として、知的障害児等の施設である「近江学園」が設立され、以後、全国から集まった福祉関係者により、さまざまな障害者福祉に係る先駆的な取り組みが展開されてきました。

そして、今、近江学園の創設から半世紀を経る中、社会経済情勢が大きく変化し、これまで社会を支えてきた様々なシステムが見直しを迫られ、我が国は今、大きな変革の中にいます。

私たちは、この新しい時代の中で、全県あげて琵琶湖の環境保全を通じた地球環境への貢献を進めるとともに、人権問題を象徴する障害者福祉の分野において、故糸賀一雄氏の心を受け継ぎ、時代を支える有為な人材の発掘・育成・奨励のための取り組みを推進していきたいと考えています。

このため、平成9年度に我が国の関係団体等の総意の下に、日本国内やアジア太平洋地域において、障害者福祉の分野で顕著な活躍をされている人を表彰する「糸賀一雄記念賞」を創設し、今回第9回目の募集を行うことになりました。

この記念賞が、障害者福祉にかかわる多様な人材・感性・情報が交流するための機会づくりとなり、21世紀における我が国やアジア太平洋地域の福祉の発展と人づくり・意識づくりに寄与することを心から願っています。

平成17年2月1日

財団法人 **糸賀一雄記念財団**  
理事長 **國松善次**  
(滋賀県知事)

## 第9回 糸賀一雄記念賞の概要

---

### 1. 趣 旨

障害者の基本的人権の尊重を基本に、生涯を通じて障害者福祉の向上に取り組まれた故糸賀一雄氏の心を受け継ぎ、障害者やその家族が安心して生活することができる福祉社会の実現に寄与することを目的として、障害者福祉の分野で顕著な活躍をされている人に対して「糸賀一雄記念賞」を授与するものです。

### 2. 実施主体

「財団法人 糸賀一雄記念財団」

### 3. 記念賞の内容

#### (1) 候補者、資格

日本、東アジア地域、東南アジアおよび西太平洋地域（ただし、オーストラリアおよびニュージーランドを除く）に居住し、障害者福祉に関する活動実績が高く評価されており、かつ、今後の一層の活躍が期待される個人とします。

#### (2) 授 賞

- ・ 2名程度とします。
- ・ 1名につき賞状及び賞金200万円を授与します。

### 4. 募集期間

- ・ 平成17年2月1日～平成17年5月31日

### 5. 募集方法

- ・ 所定の「第9回糸賀一雄記念賞候補者推薦書」に記入し（日本語または英語に限る）、第3者により応募してください。他薦とします。
- ・ 郵送による応募の場合は、募集期間の最終日必着とします。
- ・ E-mailによる応募も可能とし、期限は募集期間の最終日とします。
- ・ 以前の候補者で受賞外となった人の再応募を妨げません。

### 6. 選考方法

受賞者は、推薦のあった応募者（前3回までの候補者を含む）の中から選考委員会が選考し、理事会の議決を得て決定します。

### 7. 授賞式

授賞式は、平成17年11月に行う予定です。あわせて授賞記念行事を行います。

### 8. その他（推薦書の送付先および問い合わせ先）

財団法人 糸賀一雄記念財団  
〒520-3111 滋賀県湖南市東寺四丁目1-1  
Tel/Fax 0748-77-0357  
E-Mail : itogamf@mx.biwa.ne.jp  
URL : <http://www.biwa.ne.jp/~itogamf>

## 糸賀一雄記念賞選考委員

委員長	大谷 藤郎	国際医療福祉大学総長
委員	江草 安彦	(財)糸賀一雄記念財団副理事長 (財)日本知的障害者福祉協会顧問 (社福)旭川荘理事長 川崎医療福祉大学名誉学長
〃	北浦 雅子	(社福)全国重症心身障害児(者)を守る会会長
〃	京極 高宣	日本社会事業大学学長
〃	鈴木 健二	生命尊重センター 円ブリオ基金アドバイザー
〃	徳川 輝尚	全国身体障害者施設協議会会長
〃	福田 雅子	ジャーナリスト
〃	野地 芳雄	(財)全国精神障害者家族会連合会常務理事
〃	松尾 武昌	(社福)全国社会福祉協議会常務理事
〃	長田 こずえ	国連アジア太平洋経済社会委員会社会開発部社会問題担当官
〃	安藤 よし子	滋賀県副知事

## 財団法人 糸賀一雄記念財団役員 (平成17年1月1日現在)

理事長	國松 善次	滋賀県知事
副理事長	大谷 藤郎	国際医療福祉大学総長
専務理事	澤田 史朗	滋賀県健康福祉部長
理事	糸賀 房	故糸賀一雄氏夫人
〃	酒井 吉男	(財)滋賀県身体障害者福祉協会会長
〃	今井 一夫	(社)滋賀県手をつなぐ育成会会長
〃	太田 義弘	滋賀県障害者施策推進協議会会長
〃	北野 憲一	滋賀県児童成人福祉施設協議会会長
〃	廣野 寛	(株)滋賀銀行相談役
〃	三浦 了	(社福)大木会理事
監事	谷畑 英吾	湖南市長
〃	岩田 守弘	(株)びわこ銀行専務取締役

# 糸賀一雄記念賞受賞者

(現職は受賞時)

## 第1回 (平成9年度)

- ナロン・パティバチャラキク氏 (タイ王国)  
現職 タイ王国議会上院議員  
障害者インターナショナル  
アジア太平洋ブロック評議会議長
- 飯田雅子氏 (神奈川県)  
現職 財団法人鉄道弘済会  
総合福祉センター「弘済学園」園長

## 第2回 (平成10年度)

- 曾 文雄氏 (台湾)  
現職 台湾盲人重建院院長
- 中澤 健氏 (マレーシア在住)  
現職 アジアコミュニティーサービス代表

## 第3回 (平成11年度)

- ミーケ・スーミアティ・スーゲング・スーパリ氏  
(インドネシア)  
現職 リハビリテーション・インターナショナル  
インドネシア国内事務局長
- 調 一興氏 (東京都)  
現職 社会福祉法人東京コロニー理事長

## 第4回 (平成12年度)

- ジュディ・アン・ウイ氏 (シンガポール)  
現職 シンガポール障害者福祉協会会長
- 高田英一氏 (京都府)  
現職 社会福祉法人  
京都聴覚言語障害者福祉協会理事長

## 第5回 (平成13年度)

- ヴェナス・M・イラガン氏 (フィリピン)  
現職 フィリピン国際障害者連盟会長
- 佐々木正美氏 (東京都)  
現職 川崎医療福祉大学 医療福祉学部  
医療福祉学科 学科長・教授

## 第6回 (平成14年度)

- セタレキ・セル・マカナワイ氏  
(フィジー諸島共和国)  
現職 障害者インターナショナル・  
アジア太平洋支部オセアニア担当副会長
- フィン・ヴァン・カム氏  
(ヴェトナム社会主義共和国)  
現職 ヴェンチェ省児童基金会長
- 中西由起子氏 (東京都)  
現職 アジア・ディスアビリティ・  
インスティテート (ADI) 代表

## 第7回 (平成15年度)

- 鄭 徳煥 (チョン・ドック・ホワン) 氏  
(大韓民国)  
現職 エデン福祉財団理事長
- 近藤弘子氏 (北海道)  
現職 社会福祉法人侑愛会  
総合施設長・おしま学園長

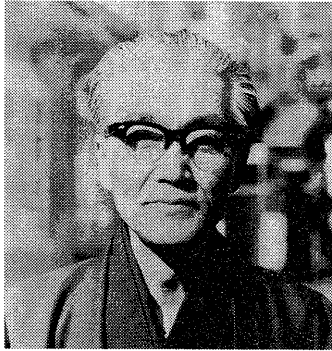
## 第8回 (平成16年度)

- 郭 建模 (カク・ケンモ) 氏 (中国)  
現職 中国聾人オリンピック委員会  
名誉主席
- 日浦美智江氏 (神奈川県)  
現職 社会福祉法人訪問の家理事長

# 第8回 糸賀一雄記念賞募集結果

募集期間 平成16年2月1日～5月31日  
募集結果 国内8名・国外16名 計24名

## 糸賀一雄氏の略歴



大正3年3月29日 鳥取市に生まれる。

昭和13年3月、京都帝国大学文学部哲学科を卒業した後、  
昭和15年1月滋賀県庁に奉職し、秘書課長などを歴任する。

昭和21年11月、戦後の混乱期の中で池田太郎、田村一二両氏の懇請を受け、知的障害児等の入所・教育・医療を行う「近江学園」を創設し、園長となる。

以来、あらゆる困苦と戦いながら、学園の充実を図るとともに、西日本で最初の重症心身障害児施設「びわこ学園」を設立するなど、多くの施設建設を手がけるとともに、中央児童福祉審議会・精神薄弱者福祉審議会の委員や全日本精神薄弱者育成会（手をつなぐ親の会）の理事として、国の制度づくりにも尽力する。

また、「障害の早期発見、早期対応」のための乳幼児検診システムの確立に寄与するとともに、多くの指導者を養成し全国に送り出すなど、我が国の障害者福祉の基礎づくりに多大な業績を残している。

これらの取り組みにおいては、重度の障害児であっても、人間としての生命の展開を支えることが重要であるとの理念のもとに、「この子らを世の光に」ではなく、「この子らを世の光に」と唱え、人間の新しい価値観の創造を目指した人権尊重の福祉の取り組みを展開し、その精神は、現在もなお我が国の多くの福祉関係者に受け継がれている。

昭和43年9月17日、滋賀県児童福祉施設等新任職員研修の講義中に倒れ、翌18日に死去する。

主たる著書に、「この子らを世の光に」、「愛と共感の教育」、「勉強のない国」、「精神薄弱児の職業教育」、「精薄児の実態と課題」、「福祉の思想」などがある。

財団法人 **糸賀一雄記念財団**

滋賀県湖南市東寺四丁目1-1

TEL・FAX : 0748-77-0357

E-mail : itogamf@mx.biwa.ne.jp

**Kazuo Itoga Memorial Foundation**

4-1-1 Higashidera, Konan-city, Shiga

Tel and Fax : 0748-77-0357

E-mail : itogamf@mx.biwa.ne.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています  
This paper is 100% recycled.







(4) 今後の活動に関する展望等

A large rectangular area with a solid black border, containing numerous horizontal dotted lines for writing.



A large rectangular box with a solid black border, containing 25 horizontal dashed lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across the width of the box.